

施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進

★「博多町家」ふるさと館入館者数 R2n : 34,206 人 → R3n : 43,369 人

★福岡アジア美術館入館者数 R2n : 135,690 人 → R3n : 202,186 人

- ・外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館）
R2n : 462 人 → R3n : 498 人

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

★鴻臚館跡展示館の改修

★祈念櫓石垣保存修理工事、潮見櫓石垣整備工事を実施

★福岡城むかし探訪館来館者数 R2n : 12,142 人 → R3n : 13,015 人

★三の丸スクエア来館者数 R2n : 17,464 人 → R3n : 14,591 人

- ・鴻臚館跡展示館来館者数 R2n : 11,011 人 → R3n : 12,162 人
- ・外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館）
R2n : 312 人 → R3n : 257 人

文化財の観光資源としての活用促進

- ・吉武高木遺跡「やよいの風公園」での菜の花・コスモス花畑公開 R2n : 2 回 → R3n : 2 回
- ・SNS を活用した史跡の情報発信

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲7-3>

- ・クリエイティブフェスタの来場者数 R2n : 約 16,000 人 → R3n : 約 40,000 人

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・魅力的なコレクション展や特別展の開催、カフェやミュージアムショップ等の利便施設の充実

集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・「アートカフェ」で、市主催及び民間利用によるイベントやユニークメニューを実施
- ・外国人来館者数（福岡アジア美術館） R2n : 380 人 → R3n : 465 人

集客交流拠点としての博物館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・所蔵資料を活かした魅力あふれる企画展の開催や施設を利用した多様なイベントを実施

海辺を活かした観光振興事業

- ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくりや立ち寄りスポットづくりの検討等
- ★北崎地区の歩道美装化工事（完了）、無電柱化工事を実施
- ★志賀島地区の無電柱化に向けた設計を実施
- ・志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R2n : 2,238 人 → R3n : 2,764 人

無電柱化の推進＜再掲３－１＞

- ・無電柱化推進計画に基づく無電柱化整備延長 R2n：150.3km → R3n：153.6km（見込み）

ふくおかの“食”の磨き上げ ＜再掲６－４＞

- ・海外のシェフ等との商談回数 R1n：8回→R2n・R3n：実施なし※
※新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

動植物園再生事業 ＜再掲４－４＞

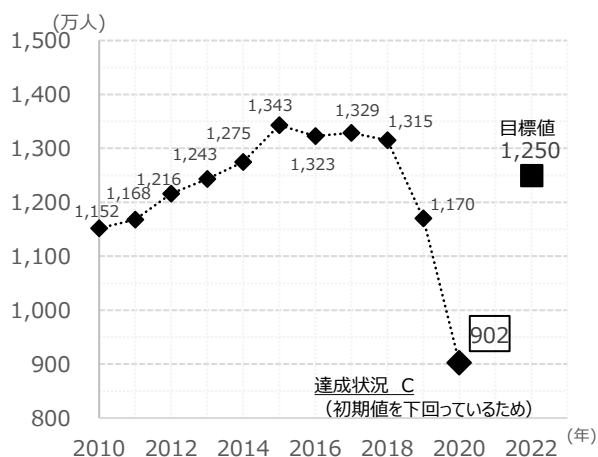
- ・ペンギン展示施設の完成、ゾウ舎拡張整備工事の実施

特色ある公園づくり事業 ＜再掲４－４＞

- ・高宮南緑地において、旧高宮貝島家住宅改修工事の完了

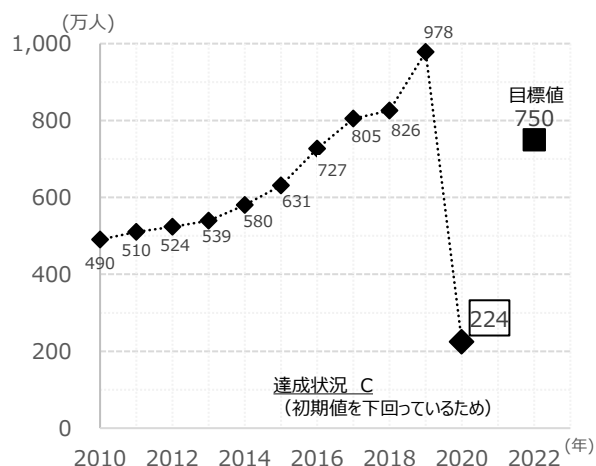
2 成果指標等

①入込観光客数（日帰り）



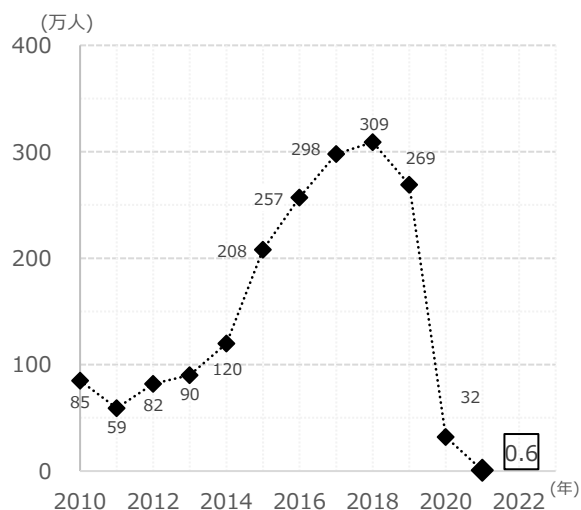
出典：福岡市観光統計

②入込観光客数（宿泊）



出典：福岡市観光統計

③福岡市への外国人来訪者数〔補完指標〕 ＜再掲 5－6＞



出典：法務省「出入国管理統計」

＜指標の分析＞

指標①及び指標②については、入込観光客数全体（日帰り＋宿泊）は、市内ホテル・旅館の客室数の増加や観光・MICEの積極的な誘致・受入などにより、増加していたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響によりは大幅に減少している。

なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、人の移動が制限されていることから、Fukuoka East&West Coast プロジェクトなどの身近な観光資源を活用した新たな滞在コンテンツの造成などにより、マイクロツーリズムなど新しい生活様式に対応した観光を推進した。

指標③は、目標値を下回っているが、これは新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等により、外国人入国者数が大幅に減少していることが要因である。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	[参考]前年度 △：やや遅れている
-----------	----------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進	
進捗	・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、インバウンドを含む観光客が減少している状況を鑑み、博多旧市街の観光地としての価値や認知を高める取組みを地域・民間事業者と連携しながら強化するとともに、安全安心にエリア観光を楽しんでいただける環境を整えることで、ウィズコロナ時代における新しい博多旧市街エリアの観光推進に取り組んだ。 ＜観光地としての価値を高める取組み＞ ・交通局と連携し、地下鉄祇園駅の副駅名（「博多旧市街口」）設定を契機とした駅構内における博多旧市街の魅力を伝える装飾や記念乗車券の販売を実施。 ・歴史・伝統・文化など博多旧市街の特有性を生かした宿泊プラン、土産物、体験コンテンツといったオリジナル観光商品である博多旧市街セレクションを市の広報媒体や市有施設等で紹介するとともに、プロモーション動画の制作・放映など、官民連携によるプロモーションを実施。 ・歴史資源や名所をつなぎ、趣のある道路として美装化を実施。 ＜安全安心に楽しめる環境整備＞ ・地域及び民間事業者と連携し、灯籠をエリア内に設置することで街並みの雰囲気醸成 ・音声 AR を活用したガイドコンテンツのサービスを開始し、広報ツールを活用した普及・利用促進を実施。 ＊博多旧市街セレクション登録商品数 R3n：31 商品 ※R3 年 3 月から登録開始 ＊「博多町家」ふるさと館の入館者数 R2n：34,206 人→R3n：43,369 人 ＊福岡アジア美術館の入館者数 R2n：135,690 人→R3n：202,186 人 ＊外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館） R2n：462 人→ R3n：498 人
課題	・博多旧市街の認知度を向上させることが必要。 ・H29.12から、博多部にある価値ある歴史・伝統・文化の資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客が認知し楽しんでもらえる環境を整え、魅力を高める取組みを推進してきたが、国内外問わず認知度が低いため、観光資源として魅力を磨き、市民や観光客に情報発信していくことが必要。
今後	① 博多旧市街フェスティバルの魅力向上 地元や関係者と連携した旧市街の新たな定番として旧市街フェスを定着させていくための取組みを実施。 ② 博多旧市街ブランディング 交通機関・民間企業と連携したプロモーション強化。 ③ ふくおか歴史資源活用協議会における連携事業 寺社保有の貴重な文化財については、他の観光商品との差別化や高付加価値化を行い公開・活用。

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取り組み

進捗	・H26n に策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、祈念櫓石垣保存修理工事及び潮見櫓石垣整備工事を実施。 ・南丸多聞櫓の特別公開及びイベントを実施。 *多聞櫓公開来場者数 R2n：750 人 → R3n：823 人 *イベント来場者数 R3n：1,117 人 ・Web や SNS を活用した情報発信を実施。 ・福岡城の建物・石垣を利用したボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむイベントを実施。 ・福岡城・鴻臚館ウェブサイトのリニューアルを実施。 ・H30n に策定した「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」に基づき、鴻臚館跡展示館の改修を実施。 ・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館の施設運営を行い、観光客の受入環境を整備するとともに、着物や乗馬、ドローンによる記念撮影などの体験コンテンツを実施。 *福岡城むかし探訪館来館者数 R2n：12,142 人 → R3n：13,015 人 *三の丸スクエア来館者数 R2n：17,464 人 → R3n：14,591 人 *鴻臚館跡展示館来館者数 R2n：11,011 人 → R3n：12,162 人 *外国人来館者数（上記三館合計） R2n：312 人 → R3n：257 人 ・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむAR体験コンテンツを実施。 ・エリア内事業者による、博物館の特別展に合わせた相互誘客・回遊促進策や、鴻臚館広場での集客イベントを実施。 ・福岡市公式の「福岡城御城印」の官兵衛バージョンを販売開始。 ・福岡城整備基金 *福岡城復元に当たり広く参加意識を醸成するため設置。H26.7 条例施行 *積立総額：122,459,355 円（R4.3 月末時点）
課題	・史跡の周知を進めるとともに、史跡を活用した体験コンテンツの開発など、市民や観光客が文化財を身近に感じるよう活用を図り、福岡の豊かで魅力ある観光資源の掘り起こしや磨き上げに取り組むことが必要。福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取り組みが必要。
今後	・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げやARなどのデジタルコンテンツの活用、イベントやMICEレセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、夜間の受入環境整備やナイトコンテンツの検討などに取り組む。

文化財の観光資源としての活用促進

進捗	・吉武高木遺跡「やよいの風公園」については、地域や史跡保存会等との連携を密接に図りながら、菜の花・コスモスの花畑公開に取り組んだ。また、SNS を活用した情報発信に努めた。
課題	・吉武高木遺跡については、観光資源としての活用促進のため、積極的な広報や周知により、認知度を高めることが課題である。
今後	・吉武高木遺跡等については、新型コロナウイルス感染症への対応を図りながら、観光資源としての活用を促進するため、地域などと連携し、魅力あるイベントの開催や情報発信に努める。

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲 7-3>	
進捗	・「アジアと創る」をコンセプトに、クリエイティブフェスタや福岡アジア文化賞のほか、アジアとクリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図り、アジアンパーティとして、9月～10月に実施（23事業、約11万人が参加）。コロナ下においても「アジア」「クリエイティブ」を体感できるようオンラインを活用した事業を実施。 ・クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRするため、福岡市役所西側ふれあい広場等にてイベントを実施。 ＊クリエイティブフェスタの来場者数 R2n：約16,000人→R3n：約40,000人
課題	・アジアンパーティは、R3nに9年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。
今後	・さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。 ・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲 1-4>	
進捗	・魅力的なコレクション展や特別展の開催、コレクションを核としたSNS等による積極的な広報・情報発信、コロナ下に対応したオンラインによる取組みを積極的に行った。R3nは特別展「ゴッホ展」等の開催により、R2nに大きく減少した施設利用者数は回復傾向にある。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館 R3.5.12～R3.6.20 R3.8.9～R3.9.13（特別企画展及び関連企画は休館中も開催） ＊施設利用者数 R2n：160,061人→R3n：381,227人 ＊コレクション展外国人来館者数 R2n：1,173人→R3n：1,350人 ＊特別展「ゴッホ展」観覧者数 129,293人
課題	・時代や市民ニーズに応える集客交流拠点として、観光客やこれまであまり美術館を訪れていなかった方々に対するアプローチを強化していくことが必要。また、感染症対策を適切に講じながら、オンラインを活用した取組みを含め、「新しい生活様式」に対応した施設として魅力の向上を図る必要がある。 ・より多くの市民が美術館やアートを身近に感じることができるよう、市民が気軽にアートに触れ、楽しむ機会を創出する必要がある。
今後	・魅力ある展覧会の開催のほか、SNSなどによる積極的な情報発信を通して、広く美術館の魅力を伝えるとともに、美術館の認知度を高め、多くの市民や観光客が来館するような様々な取組みを行っていく。 ・集客イベントや子ども向け事業の充実により美術館の新しい魅力を創出するとともに、オンラインを活用した広報・集客の取組みなどを推進することにより「新しい生活様式」に対応した、市民も観光客も安全・安心に楽しめる施設としての充実を図る。 ・R4nに創設する「福岡アートアワード」等の事業により若手アーティストの成長支援を行うとともに、市民が身近にアートに触れる暮らしを推進する。

集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲 1-4>

進捗	・「アートカフェ」の整備（H30.3）後は、積極的に活用を推進し、市主催や民間利用による様々なイベントやレセプション等に利用されている。新型コロナウイルス感染症予防のための「新しい生活様式」を徹底するとともに、SNS で積極的な広報・情報発信など、オンラインによる発信強化を行った。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館 R3.5.12～R3.6.20 及び R3.8.9～R3.9.13（8.9～ 入場料有料の企画展は開催） ※施設利用者数 R2n：135,690 人→ R3n：202,186 人 ※外国人来館者数 R2n：380 人→ R3n：465 人 ※アートカフェ利用件数 R2n：9 件→ R3n：29 件
課題	・「アートカフェ」を、多様なイベント等が開催される当館の新たな魅力空間として内外にさらに発信していくことが必要である。 ・より多くの市民が美術館やアートを身近に感じることができるよう、アーティストの育成や現代アート業界の活性化を行い、市民が気軽にアートに触れ、楽しむ機会を創出する必要がある。
今後	・「アートカフェ」で定期的に音楽演奏や伝統芸能公演等を実施するなど、多様な文化芸術に出あえる、博多部の新たな集客交流拠点として、より一層、市民や観光客の認知度を高めていく。 ・R4nからは、「Artist Café Fukuoka」を舞台に「アーティスト・イン・レジデンス」事業を拡充し、アーティストが福岡を拠点により活躍できるよう支援するとともに、福岡の現代アート界の活性化を図り、市民が身近にアートに触れることができる暮らしを推進していく。

集客交流拠点としての博物館の魅力向上 <再掲 1-4>

進捗	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一部イベントを中止したが、自宅に居ながらにして楽しめる Web コンテンツをまとめた「おうち DE 福岡市博物館！」のコンテンツ拡充や、公式 YouTube チャンネルで学芸員による企画展示室の案内動画の発信、小学校へ出向き勾玉づくり等を行う「出前学習」を学校の要望に応じてオンラインでも開催するなど、オンラインでの取り組みを推進した。 ・特別展「徳川家康と歴代将軍」にあわせて、南側エントランス等を利用して、静岡県特産品の販売イベント「ふじのくに・しずおかデー」を開催した。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館 R3.5.12～R3.6.21、R3.8.9～R3.9.13（特別展は休館中も開催） ※施設利用者数 R2n：129,151 人→ R3n：183,554 人 ※常設展示室外国人観覧者数 R2n：261 人→ R3n：389 人 ※特別展「徳川家康と歴代将軍」（R3.7.16～R3.9.5）観覧者数 29,010 人
課題	・歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが必要。 ・地域住民、観光客など多様なニーズに合わせた事業展開。 ・感染症対策の徹底を講じつつ、「新しい生活様式」に対応した施設としての魅力の向上を図る必要がある。 ・博物館リニューアル推進事業の方向性の検討。
今後	・展示内容の充実や関係機関との連携強化などを図り、SNS などさまざまなメディアを活用し積極的な広報を行うとともに、ホームページ等の多言語での情報提供を充実させる。 ・多言語案内表示の増設などのユニバーサル化を進め、施設環境の充実を図る。 ・博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源を地域と連動をさせながら、観光客も楽しめるような魅力的な事業を実施する。 ・感染症対策を適切に講じるとともに、オンラインを活用した広報・集客の取り組みなどの推進により、市民も観光客も安全・安心に楽しめる施設として充実を図る。 ・大規模改修にあわせ、展示機能や交流拠点機能向上など、多様な視点を踏まえた博物館リニューアル基本計画を策定し、博物館リニューアル推進事業を確実に進めていく。

海辺を活かした観光振興事業（Fukuoka East&West Coast プロジェクト）

進捗	（志賀島・北崎） ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、豊かな自然環境と調和した道づくりや、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくり、立ち寄りスポットづくりの検討等を行った。 * 北崎地区の歩道美装化工事（R3.4 完了）、無電柱化工事を実施 * 志賀島地区の無電柱化に向けた設計を実施 * 志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R2n:2,238 人→ R3n:2,764 人
課題	・観光資源を最大限活かした魅力の向上に取り組むとともに、当該地区を中心とした観光周遊コースを形成することにより、周辺地区への消費喚起、地域経済の活性化にもつなげる必要がある。
今後	・引き続き、豊かな自然環境と調和した道づくりのため、無電柱化に取り組む。 ・サイクルツーリズムの推進に向けた観光案内板の設置や新規コンテンツ造成等による滞在型プランの拡充を実施するとともに、回遊を促進する立ち寄りスポットづくりの検討を行う。

無電柱化の推進 <再掲 3-1>

進捗	・地震発生時の緊急輸送道路の確保や、電柱の倒壊等による被害防止のため、無電柱化を推進。 * 無電柱化推進計画に基づく無電柱化整備延長 R2n:150.3km → R3n:153.6km（見込み）
課題	・近年における災害の激甚化・頻発化などを踏まえ、コスト縮減や事業のスピードアップにより、無電柱化を更に推進していく必要がある。
今後	・「福岡市無電柱化推進計画（R3～R7）」に基づき、低コスト手法の活用や設計・工事の効率化を図りながら、計画的かつ効率的に推進していく。

ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6-4>

進捗	・R1 までは順調に商談回数を増やしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外シェフの招聘を中止。 ・R4.3 に新たな輸出先として、シンガポールへ唐泊恵比須かきを初めて出荷した。 * 海外のシェフ等との商談回数 R1n:8 回 → R2n・R3n:実施なし
課題	・唐泊恵比須かき、弘のサザエ、アサリ等の市内産水産物は香港の高級レストランへの出荷が進みつつあるものの、国内やその他の海外市場においては、知名度が高いとは言えない。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、国内外向けブランドの強化を図る必要がある。
今後	・シンガポールや国内向けのブランド強化・販路拡大を推進する。

動植物園再生事業 <再掲 4-4>

進捗	・ペンギン展示施設の完成、アジアゾウの導入に向けたゾウ舎拡張整備工事の実施。
課題	・動物福祉や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点に立った魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
今後	・動物と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の向上を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進。 ・アジアゾウ導入に向け、関係機関との調整を継続して実施する。 ・更に魅力ある施設となるよう、動植物園再生基本計画の見直しを進める。 ・植物園において一人一花運動の拠点としての機能強化を進める。

特色ある公園づくり事業 <再掲 4－4>

進捗	・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）整備・管理運営事業について、旧宅改修及び園地工事を完了（R4.4 開園・開館）。 ・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）について、R4.4 より指定管理を開始。
課題	・特になし。
今後	・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）については、おもてなし施設として、官民連携して良好な管理運営に努める。

施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進

- ・セントラルパーク基本計画（R1.6策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）

★・イベントの年間開催日数 R2n：31日 → R3n：65日※

※R2n以降、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止あり

- ・鴻臚館跡展示館来館者数 R2n：11,011人 → R3n：12,162人

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

- ・福岡城整備基金寄付 積立総額：122,459,355円

利活用を支える体制づくり

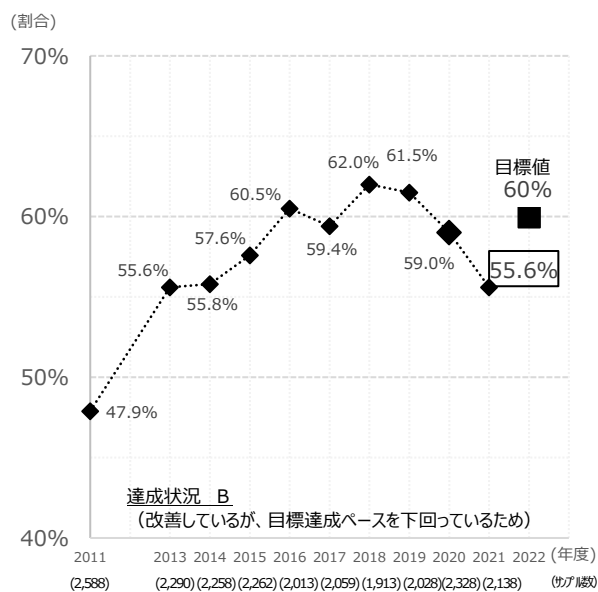
- ・大濠・舞鶴公園連絡会議の開催回数 R2n：2回 → R3n：2回

利活用を支える機能の充実

- ・サクラやアジサイ等、史跡や公園における見所づくり
- ・城内住宅の移転率 R2n：78.1% → R3n：80.1%

2 成果指標等

①過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合



<指標の分析>

これまでの緑と歴史・文化に関するイベントや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント受け入れなどによる取組みの推進が、認知度向上に寄与し、指標①の堅調な推移に現れていたが、低下している要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの自粛等と考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進	
進捗	・セントラルパーク基本計画（R1.6 策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進
課題	・鴻臚館の特性を活かした現代的な活用や整備内容の詳細な検討が必要。
今後	・セントラルパーク基本計画に基づき、市民の憩いと集客の拠点づくりを目指す。 ・わかりやすい情報発信に努め、身近な史跡としての公開・活用を進めていく。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）	
進捗	・舞鶴公園指定管理者の自主事業により、新たな利活用を推進した。 *福岡城秋の舞鶴公園で遊ぶの実施（自治会・市民ボランティア・西日本短期大学・市科学館・障がい者支援施設との連携、地域 NPO 法人との共催等） *ラジオ体操実施により地域コミュニティの場創出（10 日間、延 411 名参加） *マルシェ事業実施により日常の賑わいづくり（6 回実施、その外 HP 上でオンラインマルシェ初開催） *キッチンカー出店のサービスを実施（174 日間（R4.2）） *舞鶴公園ネイチャーウォッチング講座の定期実施（月 1 回） 講座修了者のうち希望者を運営ボランティアとして受入れ持続可能な仕組みを実施 ・季節毎の賑わいを創出するため、多様な民間イベントの受入れ等を実施。 *イベントの年間開催日数 R2n：31 日 → R3n：65 日 *けやき通りの地域イベント「ブックオカ」（青空古本市を誘致し、開催） *ヴィーガンフェス（地球環境を考えるフードや雑貨を集めたイベント） *福岡国際マラソン（世界のトップランナーが集まるマラソンイベント）など ・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物や乗馬、ドローンによる記念撮影などの体験コンテンツを実施。 ・エリア内事業者による、博物館の特別展に合わせた相互誘客・回遊促進策や、鴻臚館広場での集客イベントを実施。 ・福岡市公式の「福岡城御城印」の官兵衛バージョンを販売開始。 ・南丸多聞櫓の特別公開及びイベントを行った。 *多聞櫓公開来場者数 R2n：750 人 → R3n：823 人 *イベント来場者数 R3n：1,117 人 ・福岡城の建物・石垣を利用したボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむイベントを実施した。 ・鴻臚館跡展示館来館者数 R2n：11,011 人 → R3n：12,162 人
課題	・市民や観光客が四季を通じて楽しめるようさらなる取組みが必要。 ・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。 ・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。 ・史跡を活用した体験コンテンツの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が必要。
今後	・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園三ノ丸広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核とした多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。 ・キッチンカー及びマルシェの定期的な実施に向けた取組みを推進する。 ・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げや AR などのデジタルコンテンツの活用、イベントや M I C E レセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、夜間の受入環境整備やナイトコンテンツの検討などに取り組む。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

進捗	・市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、ふるさと納税制度を活用した福岡市ホームページによる周知、市内文化関連施設等へのチラシの設置及び本庁舎等での募金箱の設置、ならびに歴史系雑誌への広告掲載や、寄付者への事業報告書の送付など、市内外のPRに取り組むことで、基金の収益及び認知度の向上を図った。 *積立総額：122,459,355円、寄付件数：1,881件
課題	・福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取組みが必要。
今後	・福岡城整備基金への寄付のリピーターを増やすとともに、イベント等と連携したPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進する。 *城内イベントと連携した寄付等の拡充 *リピーター確保に向けた寄付者への情報発信の強化や、歴史系雑誌等への広告掲載 *SNS等の各種媒体を活用した広報の強化

利活用を支える体制づくり

進捗	・大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的として、市と県等による大濠・舞鶴公園連絡会議を開催した。 *開催回数 R2n：2回 → R3n：2回 ・大濠公園と舞鶴公園の一体的な利活用を目的とした大濠・舞鶴公園事業者による連絡会議を開催。 *開催回数 R2n：2回 → R3n：1回 ・舞鶴公園指定管理者の自主事業の充実により、市民・企業との共働を促進した。 *小学校との連携強化を図るため、出前講座メニューを作成し、近隣小学校に配布 *市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施 *企業ボランティア等と協働で、石垣除草・草刈り・剪定を実施 ・福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会のボランティアによる石垣除草及び松の剪定を実施。
課題	・両公園内の複数の施設管理者や関係部局及び民間事業者等の公園に関わる様々な主体が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実やさらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。
今後	・日常的に県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を推進する。

利活用を支える機能の充実

進捗	・史跡や公園としての魅力向上のための見所づくりを実施した。 *サクラの名所づくりに向け、剪定・土壌改良等を実施 *アジサイの見所づくりに向け、市民と共働でアジサイを植樹 *ツツジ園の見所づくり（ゲンカイツツジの育成） *コスモス畑・ナノハナ畑の育成による季節の花見どころ創出 *梅園土壌改良実施により梅の花付き改良及び開花調査継続 ・公園整備に向けて旧高等裁判所の解体が完了し、鴻臚館の発掘調査を実施した。 *事業期間：H30n～R5n、債務負担行為議決済（H26.9月） ・城内住宅の移転を実施した。 *移転率 R2n：78.1%（153/196区画）→ R3n：80.1%（157/196区画）
課題	・利活用を支える機能の充実については、将来の多様なニーズにも対応できる計画とするとともに、計画的な財源確保が必要。 ・鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。
今後	・基本計画に基づき、計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。 ・福岡高等裁判所の跡地整備について、関係機関と連携しながら推進する。 ・城内住宅について、計画的に移転事業を推進する。

施策 5－3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の拡充

- ・まち歩きコース数 R2n：61 コース → R3n：61 コース

官民共働による外国人の受入環境整備

- ・公衆無線 LAN サービス提供拠点数 R2n：113 ケ所 → R3n：114 ケ所

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

- ・「イベント情報」や「ツアー情報」等の観光情報を発信
- ・「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 R2n：213 件 → R3n：210 件

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出

- ・はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備（R3n：道路整備一部区間完了）
- ・民間事業者が整備するバスターミナルと博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（R3.4：供用開始）
- ・西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導（R3n：石畳整備一部区間完了）
- ・国道 202 号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（R4.4：春吉橋本橋車道および歩道の一部を供用開始）

天神通線整備事業 <再掲 8－1>

- ・北側延伸部の一部用地取得

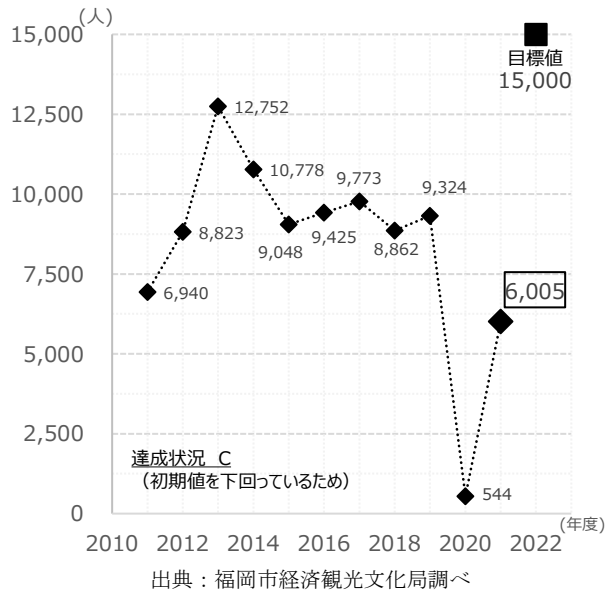
観光バス受入環境の改善 <再掲 5－6>

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R2n：0 台 → R3n：0 台※

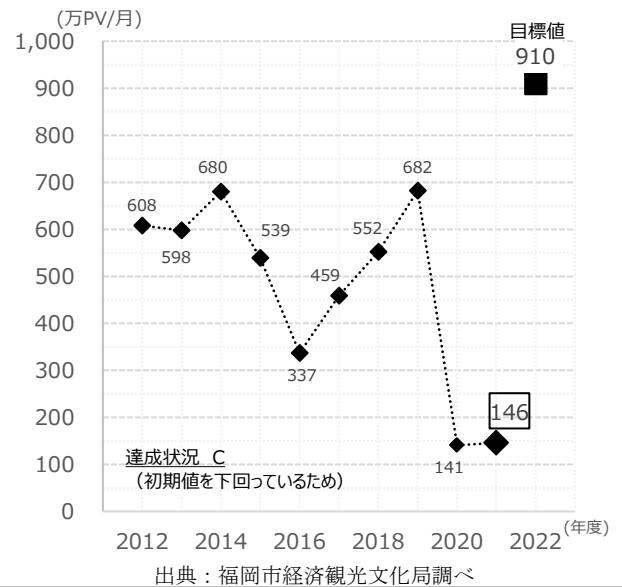
※新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ船が寄港しなかったため。

2 成果指標等

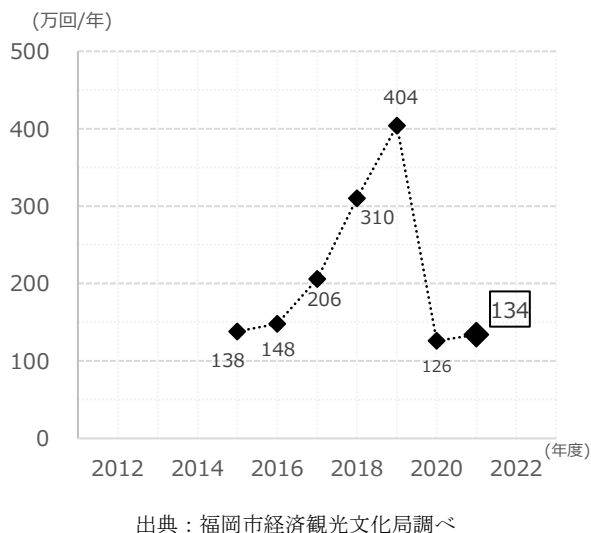
① 観光案内ボランティアの案内人数



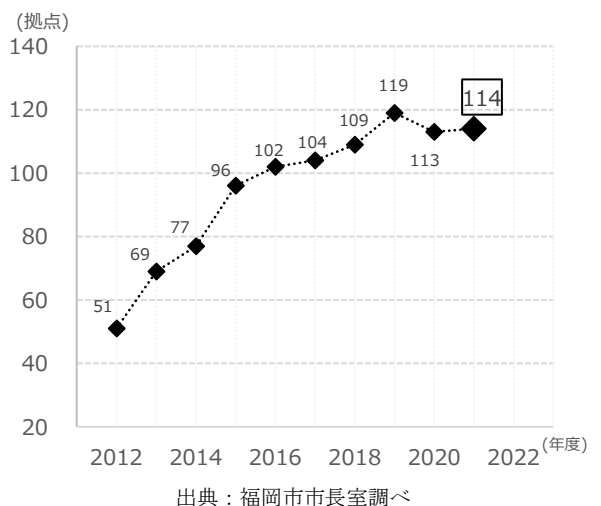
② 観光情報サイトのアクセス数 (観光情報サイト「よかなび」の月間ページビュー)



③ 「よかなび」へのスマートフォンでの訪問数 [補完指標]



④ 公衆無線 LAN サービス提供拠点数 [補完指標]



<指標の分析>

指標①は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による各種イベントの中止や、観光案内ボランティアの活動休止等により、例年と比較して大幅減となっているが、新型コロナウイルス感染症を踏まえ、安全安心に配慮した案内業務の検討・実施やまち歩き動画の配信など、コロナ下においても福岡市の魅力発信につながる活動を行った。

指標②及び指標③は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けアクセス数は大幅に減少したが、R2n に引き続き、コロナ下における観光客のニーズに合わせ、安全安心な観光情報を発信したほか、域内周遊の促進のため、地域資源を活用した魅力の発信を行った。

指標④は、一部商業施設におけるサービスが終了した一方で、新設オフィスビルや公共施設への新規導入により昨年度比 1 増となった。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている

[参考]前年度

△：やや遅れている

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の充実	
進捗	- 安全安心に配慮し、観光客の依頼に応じた派遣ガイドや企画募集型まち歩きガイド、市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施した。 *案内件数 R2n：109件 → R3n：329件 *案内人数 R2n：544人 → R3n：6,005人 *まち歩きコース数 R2n：61コース → R3n：61コース
課題	- 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、まち歩きガイドの案内人数増加に向けて、観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行う必要がある。 - 外国人観光客の受入体制について、外国語対応可能な人材が不足している。
今後	- 観光案内ボランティアの新規募集によるまち歩きガイドの充実や、都心部以外の地域における新たな地域の魅力を発掘し、新コースを開発することにより、ガイド内容の拡充及び市内の回遊促進を図る。 - 外国語対応可能な人材の育成及び確保を行うとともに、他団体との連携やIoTの活用など、インバウンド向け観光案内の仕組み作りを行う。 - 福岡の歴史や文化財を活用した体験型観光プログラムと連携して、まち歩きのさらなる魅力向上を図る。 - SNSの活用など、双方向性や拡散力を重視した情報発信に努めていく。

官民共働による外国人の受入環境整備	
進捗	- 無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の拠点拡大を官民共働により推進。 *公衆無線LANサービス提供拠点数 R2n：113ヶ所 → R3n：114ヶ所 - 国際スポーツ大会にむけて、多様な食文化や多言語、キャッシュレス等に対応する飲食店、小売店、体験コンテンツなどの「おもてなし店舗」を募集。 - 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向け、市内宿泊施設が取り組む安全対策強化を支援した。
課題	新型コロナウイルス感染症の収束後は、再び観光客の増加が予想されることから、観光施設や宿泊施設、交通機関、飲食店等と連携して受入環境の充実に取り組む必要がある。
今後	ラグビーワールドカップをはじめ大規模なMICE開催のレガシーを、今後開催予定の大型MICEへと継承し、都市ブランド力のより一層の向上を目指し、官民一体で外国人観光客の受入環境整備の充実を図る。

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

進捗	・国内外への情報発信として、5言語（日本語、英語、韓国語、中文簡体、中文繁体）で展開するとともに、主要な情報については、フランス語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語、タイ語、ベトナム語の6言語でも発信している（計11言語）。 *フランス語、タイ語、ベトナム語については内容の拡充（モデルコース、特集の掲載）を行った。 ・トップページでは、外国人を含む観光客の誘客と、来福者の回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく観点から、「イベント情報」や「ツアー情報」をはじめとした観光情報を、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ発信している。 *「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 R2n：213件 → R3n：210件
課題	・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう、情報発信に取り組んでいくことが必要。
今後	・様々なエリアの旬のコンテンツの発信に加え、外国人を含む観光客のニーズを踏まえたコンテンツを多言語で発信することなどにより、サイト利用者の興味を喚起し、誘客につなげていくほか、外国人観光客をはじめとする来福者に、「イベント情報」や「ツアー情報」等をわかりやすく発信し、福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出

進捗	・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。 ＜具体事業＞ *はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備（R3n：道路整備一部区間完了） *民間事業者が整備するバスターミナルと、博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（R3.4：供用開始） *西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備（R3n：石畳整備一部区間完了）と景観誘導（H30.10 西中洲地区景観誘導街づくり計画登録） *国道202号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（R4.4：春吉橋本橋車道および歩道の一部を供用開始）
課題	・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。
今後	・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。

天神通線整備事業 ＜再掲8-1＞

進捗	・都市計画決定（南側：H25.8 告示、北側：R2.9 告示） 北側延伸部については、R2n から事業着手し、用地取得を進めている。
課題	・北側延伸部については、周辺のまちづくりと併せた道路整備が必要。
今後	・北側延伸部については、まちづくりと一体となった整備を進める。

観光バス受入環境の改善 <再掲 5－6>

進捗	- 福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 - 樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R2n : 0 台 → R3n : 0 台※ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ船が寄港しなかったため。 - 博多区御供所地区の出来町公園における観光バス乗降場の運用。
課題	新型コロナウイルス感染症等に伴い影響が生じているクルーズ市場の動向を注視する必要がある。
今後	- クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。 ※新型コロナウイルス感染症の影響やクルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。

施策5－4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8－1>

★マリンメッセ福岡B館をR3.4に供用開始し、歩行者用上屋の整備を実施

都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4－5>

・都心循環BRTにおける利用促進方策などの検討

●MICE誘致の推進

戦略的なMICEの誘致やビジネス振興

★海外見本市等商談件数 R2n：84件 → R3n：●件

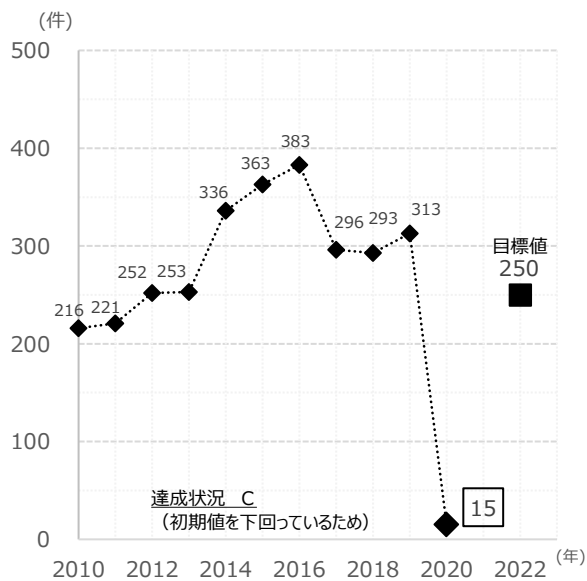
・コンベンションサポート件数 R2n：39件 → R3n：●件

・国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 R2n:2件 → R3n:0件※

※新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と比較して減少したが、新たな認定に向け社会実験実施

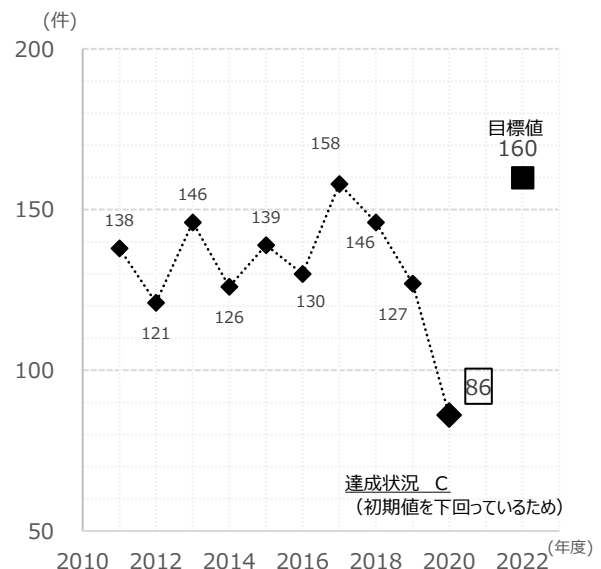
2 成果指標等

① 国際コンベンション開催件数



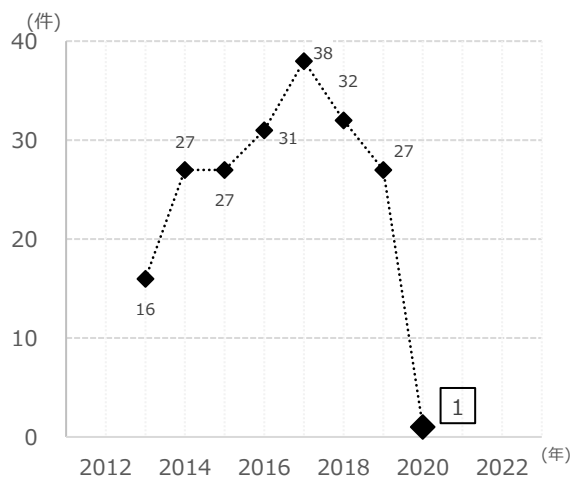
出典：日本政府観光局「国際会議統計」

② 国内コンベンション誘致件数



(公財) 福岡観光コンベンションビューロー調べ

③ 大規模国際会議開催件数 (参加者数 1,000 人以上) [補完指標]



出典：福岡市経済観光文化局調べ

<指標の分析>

指標①は目標値を下回っており、指標③においても前年度を大きく下回っている。これは新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等により、外国人参加者が大幅に減少していることが要因である。

誘致（指標②）は、新型コロナウイルス感染症の影響で誘致活動が制限されたことなどにより件数が減少したことから、誘致力強化のため Meeting Place Fukuoka の体制を強化し、関係団体との連携強化やオンラインによる誘致活動に取り組むとともに、引き続きオンラインとリアルを組み合わせたハイブリッド開催への支援を行うなど、ポストコロナに向けた取組みを推進した。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている

[参考] 前年度

△：やや遅れている

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>	
進捗	・マリンメッセ福岡B館をR3.4に供用開始し、歩行者用上屋の整備を実施。
課題	・MICE機能の強化については、感染症対策などの新たな視点を加えるとともに、MICEの動向を注視しながら適切に対応していく必要がある。
今後	・マリンメッセ福岡のおもてなしの環境整備に取り組む。 ・民間事業者等の幅広い意見も伺いながら、感染症対策などの新たな視点を踏まえたMICE機能強化に向けた検討等を行う。

都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4-5>	
進捗	・バスレーンの規制周知チラシの配布や、都心循環BRTと鉄道との乗り継ぎ案内の強化について実施。
課題	・バス事業者と連携しながら、都心循環BRTの更なる利用促進に向けた取り組みや、市民の利用意向等の把握が必要。
今後	・当面は現在の15分間隔運行を続けながら、引き続き、バス事業者と連携しながら都心循環BRTの利用促進に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、市民の利用意向等を把握するフォローアップ調査を行っていく。

●MICE誘致の推進

戦略的なMICEの誘致やビジネス振興	
進捗	・コロナ下においても、将来的なMICE開催につなげていくため、Meeting Place Fukuokaを中心に、オンラインなどを活用しながら誘致活動を行うとともに、引き続き安全対策やハイブリッド開催への支援などに取り組んでいる。 ＊海外見本市等商談件数 R2n: 84件 → R3n: ●件 ＊コンベンションサポート件数 R2n: 39件 → R3n: ●件 ＊国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 R2n: 2件 → R3n: 0件※ ※新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と比較して減少したが、新たな認定に向けて社会実験実施
課題	・市内でMICEが開催され、地域経済の活性化に繋がるよう、新型コロナウイルス感染症によるニーズの変化に対応したMICE誘致・開催支援が必要。
今後	・引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、安全対策やハイブリッド開催への支援等を行うとともに、関係機関と連携し、MICEの誘致・支援に取り組む。 ・必要に応じた感染症対策を講じた上で、国家戦略特区の道路活用などユニークベニューの活用を進め、MICE開催地としての魅力向上に努める。

施策5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

1 事業等の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み

★世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催に向けた準備

国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み

・東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿の受け入れ

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

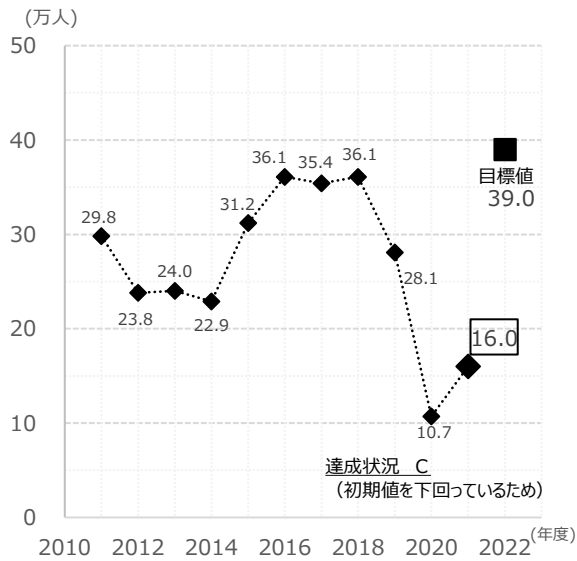
- ・アビスパ福岡によるサッカー教室の開催件数 R2n : 117 件 → R3n : 117 件
- ・観戦招待事業 R2n : 5 件 → R3n : 4 件
- ・心の教育プロジェクト R2n : 14 件 → R3n : 14 件

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、観戦招待事業については未実施
(市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業、こども観戦招待事業)

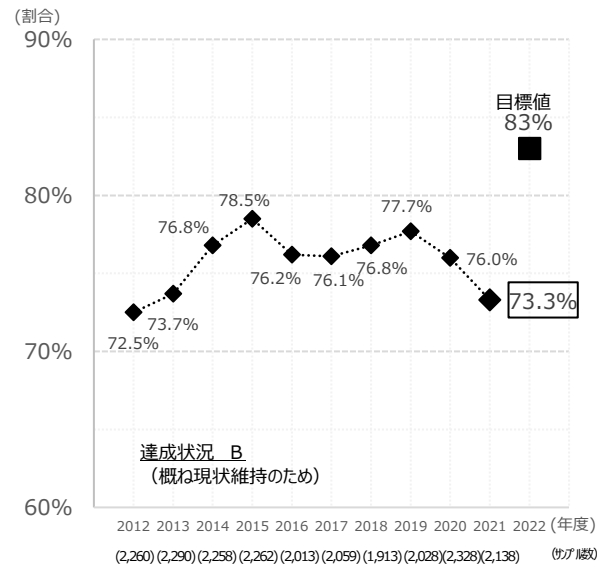
2 成果指標等

①福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数 (福岡ソフトバンクホークスを除く)



出典：福岡市市民局調べ

②スポーツ観戦の機会への評価 (福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思える市民の割合)



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

指標①は、昨年度から増加している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、プロスポーツリーグが観客数を制限する等、感染症対策を行ったうえで、試合を開催したことにより観客数が増加したものと考えられる。

指標②は、昨年度から減となっている。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのプロスポーツや国際大会等が中止や延期となったほか、無観客開催や観客数を制限しての開催となったことによるものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み	
進捗	- 世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催準備 *オミクロン株の感染拡大の影響による開催日程の変更を発表（R4.2）。 - 世界水泳選手権福岡大会 2023年7月14日（金）～7月30日（日） - 世界マスターズ水泳選手権九州大会 2023年8月2日（水）～8月11日（金） *R2nに引き続き、政府の「経済財政運営と改革の基本方針」（骨太の方針）に世界水泳選手権福岡大会が位置付け（R3.6）。 *テクノロジーを活用したアイデアのサウンディング調査実施件数13件（R3n）。 *大会関連プロジェクトの承認実績22件（R3n）。 *企業版ふるさと納税等を活用した寄付実績93件（R3n）。
課題	- 新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報収集を行っていく必要がある。 - 世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催 *合理的・効率的な大会運営を目指した各種計画の策定及び開催準備が必要。 *市負担の縮減に向け、国際水泳連盟との協議等による支出の抑制と寄付・協賛金や公的助成の獲得による収入の最大化が必要。 *大会再延期に伴う影響について精査するとともに、国際水泳連盟へ応分の負担を求める必要がある。 - 市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。
今後	- 各種競技団体等と連携し、新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の誘致などにより、市民が一流のスポーツに触れ、楽しむことができる機会を創出する。 2023年開催の世界水泳選手権福岡大会については、国際水泳連盟、日本水泳連盟等の大会関係者と協議を行いながら選手・観客などの受け入れ環境を整備し、円滑な大会運営に向け、着実に準備を進めていく。また、引き続き機会を捉えたPR活動を行うとともに、チケット販売、マスターズ参加者受付開始等の取組みを、さらなる気運醸成に繋げていく。 - 市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会などに参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進していく。

国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み	
進捗	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、スウェーデンオリンピック、ノルウェーオリンピック・パラリンピック選手団の事前合宿を受け入れた。
課題	市民がトップレベルのスポーツに触れたり、交流等ができる機会をつくる必要がある。
今後	各種競技団体等と連携し、新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の誘致などにより、市民が一流のスポーツに触れ、楽しむことができる機会を創出する。

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり	
進捗	・福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカ等と協力して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ、スポーツフェスタ）の開催を支援。 *新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、市民と選手等が触れ合うスポーツイベントは中止となった。 ・アビスパ福岡支援として、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がアビスパ福岡に触れる機会を創出。 *サッカー教室の開催件数 R2n：117件 → R3n：117件 (内訳) ・親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） R2n：0件 → R3n：0件(新型コロナウイルス感染症の影響で実施なし) ・少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） R2n：91件 → R3n：91件 ・アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） R2n：12件 → R3n：12件 ・ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） R2n：14件 → R3n：14件 ・観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） R2n：5件 → R3n：4件 ※区観戦招待を含む ・心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） R2n：14件 → R3n：14件
課題	・アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動しているが、各チームが取り組む地域に根差した取組みなどについては広く市民に認知されていないものもあり、その活動の周知を行っていく必要がある。
今後	・市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取組みについて、広報活動を支援する。 ・各スポーツチームが取り組んでいる市民とのスポーツ交流活動を支援する。

大相撲九州場所等に触れる機会づくり	
進捗	・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、観戦招待事業については未実施。 (市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業、こども観戦招待事業)
課題	・観戦招待事業にあたり、新型コロナウイルス感染症対策の徹底が必要である。
今後	・子どもたちの観戦機会をつくっていくため、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、観戦招待事業の実施に向けて検討を進めていく。

施策5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進

- ・外国人入国者数 $R2n: 32 \text{ 万人} \rightarrow R3n: 0.6 \text{ 万人}^*$
 - ★市内宿泊観光客数 $R1n: 978 \text{ 万人} \rightarrow R2n: 224 \text{ 万人}$
 - ・情報発信・招請事業回数 $R2n: 8 \text{ 回} \rightarrow R3n: 16 \text{ 回}$
- ※新型コロナウイルス感染症の影響等により減少

フィルムコミッションによるシティプロモーション

- ・海外作品撮影支援件数 $R2n: 1 \text{ 件} \rightarrow R3n: 1 \text{ 件}^*$
- ※新型コロナウイルス感染症の影響等が続いており、海外作品の支援件数は低値で推移

●クルーズ客船誘致の取組み

多様なクルーズの誘致

- ★海外コンベンションへの参加回数 $R2n: 1 \text{ 回} \rightarrow R3n: 1 \text{ 回}$

クルーズ船の受入体制の整備

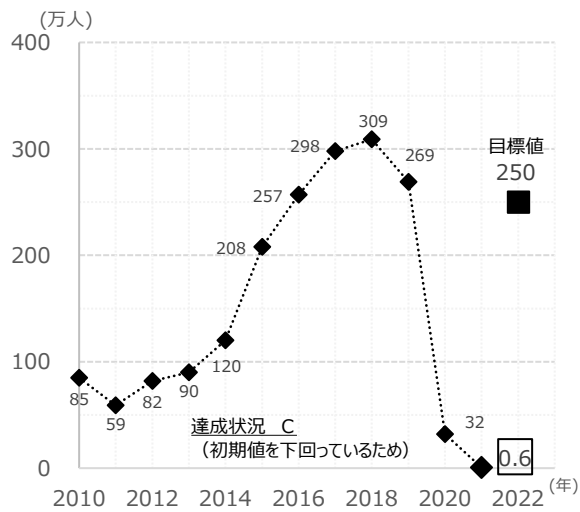
- ・クルーズ船寄港回数 $R2: 14 \text{ 回} \rightarrow R3: 0 \text{ 回}^*$
(うち外航クルーズ客船の寄港回数 $R2: 14 \text{ 回} \rightarrow R3: 0 \text{ 回}^*$)
 - ・外国航路船舶乗降人員数(不定期) $R2: 9.1 \text{ 万人} \rightarrow R3: 0 \text{ 人}^*$
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により皆減

クルーズ客の受入体制の整備

- ・外国航路船舶乗降人員数(不定期) $R2: 9.1 \text{ 万人} \rightarrow R3: 0 \text{ 人}^*$
 - ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 $R2n: 0 \text{ 台} \rightarrow R3n: 0 \text{ 台}^*$
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により減少

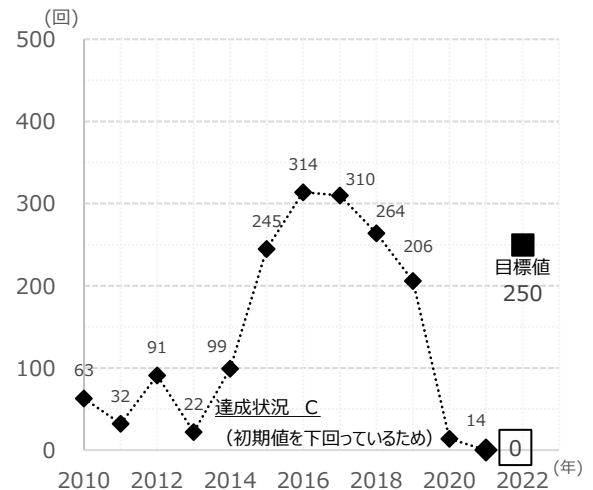
2 成果指標等

① 福岡市への外国人来訪者数



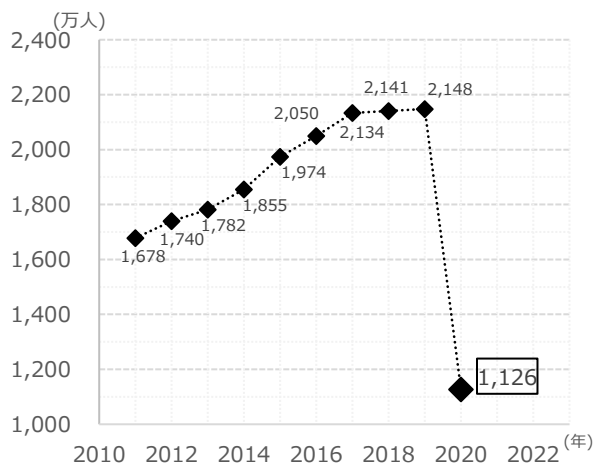
出典：法務省「出入国管理統計」

② 外航クルーズ客船の寄港回数



出典：福岡市港湾空港局調べ

③ 入込観光客数〔補完指標〕



出典：福岡市経済観光文化局「福岡市観光統計」

<指標の分析>

指標①は、目標値を下回っているが、これは新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等により、外国人入国者数が大幅に減少していることが要因である。

指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2.2以降の寄港が全てキャンセルされたため皆減となっているものの、ポストコロナを見据え、クルーズ船社と協議をするなど、寄港数の回復に向けた準備を進めた。

指標③は、8年連続で過去最高を更新していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

×：遅れている

[参考]前年度

×：遅れている

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進	
進捗	- 国の入国制限措置状況や新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえながら、九州の自治体等と連携し、海外に向け周遊ルートの魅力発信等を実施。 *外国人入国者数 R2n：32万人 → R3n：0.6万人 *情報発信・招請事業回数 R2n：8回 → R3n：16回
課題	- ターゲットとする国や地域に向けた、主にデジタルマーケティングを活用した情報発信や回遊分析などにより、観光客等の動きやニーズ等を把握する必要がある。 - 魅力ある観光コンテンツを有する九州の各自治体と連携し、戦略的に情報発信やプロモーションを行っていく必要がある。
今後	九州のゲートウェイ都市として、魅力ある観光コンテンツを有する九州の各自治体等と連携し、国の入国制限措置状況や海外の新型コロナウイルス感染症の状況等、国際観光の回復を見据えながら、メディア、インターネット等を活用して認知度や九州への旅行意欲を向上させる情報発信を行い、市発着の広域周遊観光を推進する。

フィルムコミッションによるシティプロモーション	
進捗	- 新型コロナウイルス感染症の影響等により海外スタッフの来訪が見込めず、海外作品の支援ができない状況が続いている。 *海外作品撮影支援件数 R2n：1件 → R3n：1件 - 国内の映画祭会場や国際映画祭に併せて開催される海外の見本市（オンライン開催）等においてプロモーション活動を実施。 - 国内外で話題となった支援作品を活用し、SNSやデジタルサイネージ、公共施設でのポスター掲示等の広報や、配給会社等と連携したプロモーション活動を実施。
課題	- 新型コロナウイルス感染症の影響等があり、現時点では海外からの来訪が見込めず、海外作品支援再開の見通しが立たない。 - 海外で話題となるような、福岡を舞台とした映画・テレビドラマ等の作品が不足している。 - 撮影環境、慣習の違いから、海外の撮影隊を受け入れる十分なノウハウを持つ事業者が少ない。 - 福岡で撮影された映画等のロケ地について、情報発信が不足している。
今後	- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、安全・安心なロケの受け入れを進める。 - これまで培ったネットワークを活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。 - 海外からの撮影隊に地元映像関係者が参画する場を提供することで、ノウハウの蓄積、人材育成につなげ、海外からの撮影受け入れ体制の充実に取り組む。 - 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、支援作品の公開等に合わせ、ロケ地や作品を活用した観光PRやシティプロモーションを行う。

●クルーズ客船誘致の取組み

多様なクルーズの誘致	
進捗	- 新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動を実施。 ＊海外コンベンションへの参加回数 R2n : 1 回 → R3n : 1 回
課題	- 中国市場偏重によるカントリーリスクを避けるため、多様な地域からのクルーズ船の誘致に取り組む。 - 今後、新型コロナウイルス感染症に係る事態が収束した際に再び多くの寄港をいただけるよう、誘致活動が必要。
今後	- 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、アジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズを誘致するとともに、船社への働きかけ等により、博多港発着クルーズの更なる振興を図る。 - F I T（訪日外国人個人旅行）の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化・上質化に取り組む。

クルーズ船の受入体制の整備	
進捗	- クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭西側岸壁を延伸し、H30.9に供用を開始。 - クルーズ船については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、R2.6に安全に受入れができる環境が整うまでは岸壁の利用を認めないなど、福岡市独自のルールを策定。 ＊クルーズ船寄港回数 R2 : 14 回 → R3 : 0 回＊ （うち外航クルーズ客船の寄港回数 R2 : 14 回 → R3 : 0 回） ※新型コロナウイルス感染症の影響により皆減
課題	新型コロナウイルス感染症の影響が生じているクルーズ市場の動向や他港の状況などを注視しながら、安全に受入ができる環境を整える必要がある。
今後	受入再開にあたっては、新型コロナウイルス感染症の状況やワクチン接種の進捗などを注視しながら、市民の安全安心を第一に判断していく。

クルーズ客の受入体制の整備	
進捗	- 福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 ＊樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 - R2n : 0 台 → R3n : 0 台＊ ※新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ船が寄港しなかったため ＊外国航路船舶乗降人員数（不定期） R2 : 9.1 万人 → R3 : 0 人
課題	- 新型コロナウイルス感染症の影響が生じているクルーズ市場の動向を注視する必要がある。 - クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生。
今後	- 寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。 - クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。 ※新型コロナウイルス感染症の影響やクルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。